

よりよい学級集団づくりに向けて

図教育研究所 ☎70・5659

学級集団アセスメント

子どもたちの学びの質を高めるには、よりよい環境の中で学習することが大切です。いじめや不登校などの防止も重要です。

そこで、本市では、学級における子どもの満足度や意欲、集団や個人の状態を把握するため、アンケート方式の学級集団アセスメントを実施しています。同ア



セスメントとは、個々の児童・生徒の実態や学級集団の状況を客観的に評価することです。

対象は、小学5・6年生と中学1・2年生の全学級で、アンケートは年2回、5月と1月に行います。

学校では教師の観察に加え、年2回の客観的なデータを基に変容を確認し、学級経営の改善を図っています。

また、このアンケートで見えてきた学級集団や子どもの内面の状況から、いじめや不登校の防止に取り組んでいます。

昨年度3月に担任に実施したアンケートによると、2回目の学級集団アセスメントを実施後、1回目の結

ソーシャルスキルトレーニング

果と比較して改善が見られたクラスは小学校で52%、中学校で32%でした。

今後、子どもたちが安心して生き生きと学習や生活ができるよう、学級集団アセスメントの結果に基づき、課題を改善する取り組みを進めます。

よりよい学級集団づくりのための具体策の一つとして、学校ではソーシャルスキルトレーニングを実施しています。

ソーシャルスキルとは、対人関係を営む知識と技術のことです。

ソーシャルスキルは持つて生まれたものではなく、

土曜まなび場事業

図学校教育課 ☎70・5654

子どもの学習意欲を育て、家庭学習の習慣化を図るため、24年8月から「土曜まなび場事業」を実施しています。

まなび場は小学生が対象で、原則第1・3土曜日の午前中に地区センターなどを学習の場として無料で提供しています。

まなび場では、学習する教科を特定せず、教材は本人が持参し、分からないと

ころを教員経験者とボランティアが支援しています。

自分のやりたい勉強が思いどおりにできたり、友達と一緒に勉強できたりすることが、児童の達成感や参加意欲につながっています。

何を学習したらよいか迷っている児童には、一緒に考えて学習の糸口を見つけてあげます。

数のプリントを用意し、予定した学習が早く終わった児童が取り組んでいます。また、月に1回は「読書タイム」を組み入れているほか、工作や実験、音楽、落語などの体験的な活動も年に2回程度実施しており、児童も楽しみにして参加しています。

今年度のまなび場の会場は、中村地区センター、南部ふれあい会館、寺尾いずみ会館と北の台地区センターの4カ所ですが、来年度は6会場に増やして、全ての小学校の児童を対象にして実施する予定です。

学校ICTでさらに分かる授業を

図教育総務課 ☎70・5649、教育指導課 ☎70・5660

ICT(情報通信技術)を教科指導で活用した授業を行うと学力が向上するという調査結果があります。本市でも、急速な情報化に対応しながら、学校教育でICTを活用した取り組みを行っています。



まず、事務処理や教材研究の能率を上げて子どもに向き合う時間を増やすため、教員1人につきノートパソコン1台の配備と校内LANを整備しました。その後、普通教室に天吊り型のプロジェクターを設置し、さらにデジタル教科書や実物投影機を導入しています。

こうしたことで、ノートパソコン、プロジェクターの大型画面とデジタル教科書などを活用した視覚に訴える授業や、実物投影機を使って子どもの意見発表資料や教材・教具を大きな画面に映し出し、全員が画面を見ながら意見交換をしたり、学習内容をきちんと理解したりすることのできる授業などが行えるようになりました。

このような授業は、子どもたちの興味や関心を引き出して学習に集中させることができ、何を学ぶのかがよりはっきり分かるので、学習意欲が高まるとともに、学習内容を理解するのに役立っています。

ICTの活用は、手段であって授業の目的ではありません。教員がICTを効果的に活用し、児童・生徒が学力を身に付けることが目的です。授業の全ての場面でICTを使うのではなく、授業の導入や学習課題の提示、まとめの段階など場面を絞って活用を考えたり、中心となる学習活動のねらいや内容を考えて活用したりすることが大切です。

こうした点を十分考えながら、子どもたちに分かりやすい授業を支援するため、ICT環境の整備を進めていきます。



▲プログラム集

学習によって向上するものと考えられています。本市では、小・中学校の教職員が教育研究所の研究員となり、学級集団アセスメントの分析とソーシャルスキルトレーニングプログラムの開発について研究しています。

研究員が開発したプログラムは、「ソーシャルスキルトレーニングプログラム集」として全校に送付され、子どもたちの学校生活の基盤となる学級づくりのために、各学校で活用されています。

実践していますか あやせゼロの日運動

図生涯学習課 ☎70・5658



▲家庭読書の様子

市内保育園、幼稚園、小・中学校、PTAと協力し合って「あやせゼロの日運動」を愛称とした「家庭読書の日、ノーテレビ・ノーゲームデー運動」を全市的な取り組みとして展開しています。

この運動は、子どもの成長を

毎月10日・20日・30日は家庭読書の日
ノーテレビ・ノーゲームデー

目指して健康的な生活習慣を定着させ、豊かな心を育成するため、毎月10日・20日・30日のゼロの付く日は、テレビやゲームを一休みし、家庭での読書、家族の会話やふれあいなど、家族の時間を充実させることを目的とした取り組みです。「家族で読書」「家族とお話」「家のお手伝い」など、多くの家庭で実践されています。



▲啓発用のぼり旗